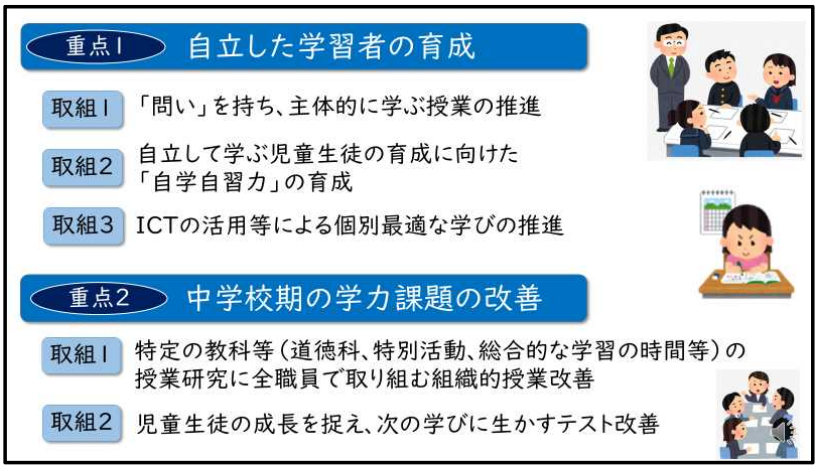
# ３「問い」が生まれる授業のポイント

本章では、各教科等（国語、社会、算数・数学、理科、体育・保健体育、外国語科、道徳科、特別活動）の「問い」が生まれる授業のポイントをまとめました。本章を参考にしながら、「問い」が生まれる授業にチャレンジしましょう。

# 本県が目指す「問い」が生まれる授業と『Ｐ･ＰⅡ』について

本県教育施策「学力向上推進５か年プラン・プロジェクトⅡ」（以下「Ｐ・ＰⅡ」と略す）は、幼児児童生徒一人一人に新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力の育成をめざし、令和２年度にスタートしました。令和４年度、Ｐ・ＰⅡは「充実期」を迎えます。「充実期」においては、「自立した学習者」の育成をめざし、児童生徒の学びに対する主体性をさらに高めたい。そこで、以下の通り重点事項及び具体的取組事項を設定して取り組むこととします。

## １　令和４年度P・PⅡにおける重点事項及び具体的取組事項

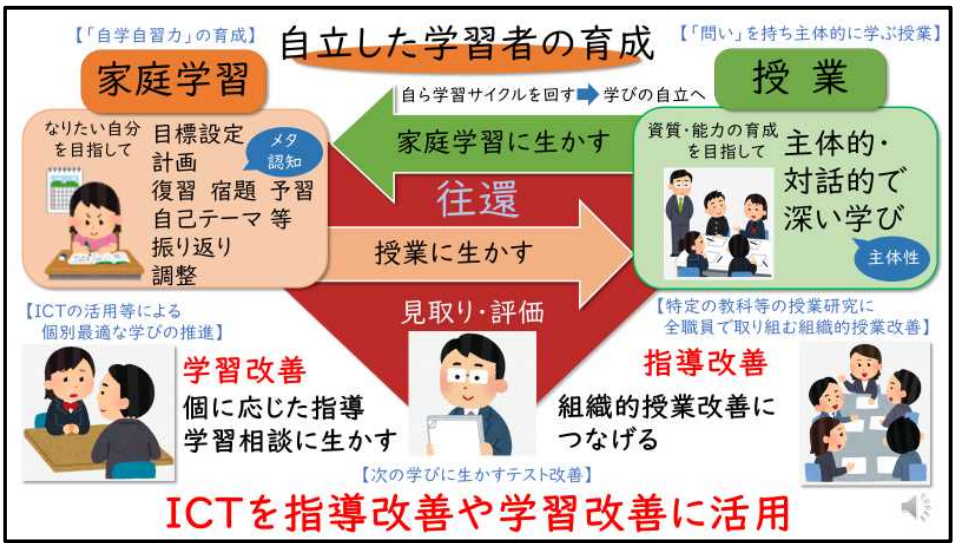



重点１は「自立した学習者の育成」、重点２は、「中学校期の学力課題の改善」とします。重点事項には、５つの具体的取組事項を設定します。

特に、重点２は、中学校に向けた具体的なアクションプランとして設定していますが、中学校期の学力課題の改善のためには、小学校期から学力と学習習慣をしっかり身に付けさせる工夫が必要です。

「義務教育課ポータルサイト」

## ２　「自立した学習者」の育成と５つの具体的取組事項の推進




５つの具体的取組事項は、次のように取り組みます。

**「問い」を持ち、主体的に学ぶ授業**で身につけたことを、家庭学習に生かす、家庭で学んだことを、授業に生かす、というような「<u>授業と家庭学習が往還する学習サイクル</u>」を構築することで、**「自学自習力」**を育成していきます。可能であれば、このような学習サイクルを、小学校中学年のうちに確立させ、高学年からはさらに質の高い授業を実施して学力を高め、学力と学習習慣をしっかり身に付けて中学校につなぎたいところです。そのために、教師は、児童生徒一人一人の学習状況を見取って評価し、授業においては資質・能力の育成をめざして日々の指導改善につなげる。また、児童生徒に対しては、個に応じた指導や学習相談に生かして学びの自立を促します。その際、指導改善面では**「特定の教科等の授業研究に全職員で取り組む組織的授業改善」**を併走させて指導力向上を図り、**「児童生徒の成長を捉え、次の学びに生かすテスト改善」**は、「指導と評価の一体化」の一端として教師の指導改善、児童生徒の学習改善に生かします。それを下支えする手立てとして、**ＩＣＴ**を、指導改善や学習改善に活用します。

## ３　学習サイクルを回す「エンジン」としての「問い」が生まれる授業

学習サイクルを回し続けるエンジンとして、児童生徒の興味・関心を引きつけ、問題解決への意欲と創造性にあふれる、質の高い授業を行う必要があります。そこで、本県が推奨する「他者と関わり合いながら課題を解決し『問い』が生まれる授業」に、一層、磨きをかける必要があります。「問いが生まれる授業」は、「主体的・対話的で深い学び」を基本とし、本県の課題を踏まえた授業像です。学びが深まったことでまた新たな「問い」が生まれ、さらに探求したくなる。学びを「授業と家庭学習の往還」などと、１単位時間の枠を越えた連続性のあるものとして捉える、本県の授業に対する見方や考え方を踏まえた授業像です。

「『問い』が生まれる授業」の実現に向けては、指導と評価の一体化の視点から目標を達成した児童生徒の姿を具体的にイメージし、評価から逆算して学習を構想することが大切です。その際、児童生徒の学びを見取る視点・観点を明確に持ち、児童生徒がどのように学んで行くかを豊かに想像・想定することが大切です。

## 4　Ｐ・ＰⅡ「３つの視点」を踏まえた授業展開例

Ｐ・ＰⅡは、自己肯定感の高まり、学び・育ちの実感、組織的な関わりを学力向上推進の「３つの視点」としています。

※『P･PⅡ』p4参照

【自己肯定感の高まり】児童生徒が､自分のよさや可能性を認識すること

【学び・育ちの実感　】児童生徒が、学ぶことの意義や価値を実感し、資質･能力を伸ばすこと

【　組織的な関わり　】各学校が､教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと

※『P･PⅡ』p７参照

これらの視点を踏まえた授業展開として、以下の内容が考えられます。

**組織体制の確立を通し、見取る視点・観点を揃えた評価**

### 主に導入場面

**主体的に「問い」をもち、自分なりの考えをもつ姿**

やってみたい
調べてみたい
解決したい

**児童生徒の学習改善**

温度の変化には時間が関係していそうだな、どうすれば確かめられるかな？

**教師の指導改善**

Aさんは、いつも観察記録が丁寧だからグラフを利用することに気付かせたいな

前の単元でやってきたことが使えないかな？

**フィードバック**

励ます、認める、価値づける、意味づける、示唆する、修正する、補充するなど

### 主に展開場面

**交流を通して新たな「問い」が生まれ、考えを広げ深める姿**

説明したい
質問したい
整理したい

**児童生徒の学習改善**

分布の様子を調べるのが楽しい

私は時期や変化のグラフを読み取るのが面白いな

**教師の指導改善**

複数の資料について考えを伝え合っているけど、視点がバラバラだな

資料のよさが見えてきたようですね。ところで、調べる目的は何だったかな？

**フィードバック**

達成した姿を念頭に置きながら児童生徒の学習の状況を把握する

児童生徒のよい点や可能性、進歩の状況などを把握して適切にフィードバックする

### 主に終末場面

**学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ姿**

もっと調べてみたい
～場面でもやってみたい
もっと考えたい

**児童生徒の学習改善**

私はこう考えたよ

そんな視点もあるんだね
次、試してみよう

**教師の指導改善**

「何を、どのように学習してきたか」を自覚できているな。

新たな「問い」を引き出すために、次時につながる気づきや疑問、学習したことを活用できる事例を紹介しよう

**フィードバック**

児童生徒一人一人の学習状況を丁寧に見取りながら指導に生かす評価を行い、児童生徒に自らの学びや変容を自覚させる

学びの連続性（単元、授業と家庭学習が往還した学習サイクル等）を大切にする